

令和6年度 こども若者★いけんぷらす
サステナブルな食の取組を広げるためにはどうしたらいい！？
アンケート調査結果（いけんのまとめ）

○調査概要

（1）調査テーマ

- サステナブルな食の取組を広げるためにはどうしたらいい！？

（2）調査対象

- 「こども若者★いけんぷらす」の「ぷらすメンバー」の登録者全員

（3）回収状況

- 回答数：150件（小学生から高校生世代¹：86件 大学生世代以上²：64件）

（4）調査方法

- WEB アンケート調査

（5）調査期間

- 令和6年7月1日（月）～7月15日（月）

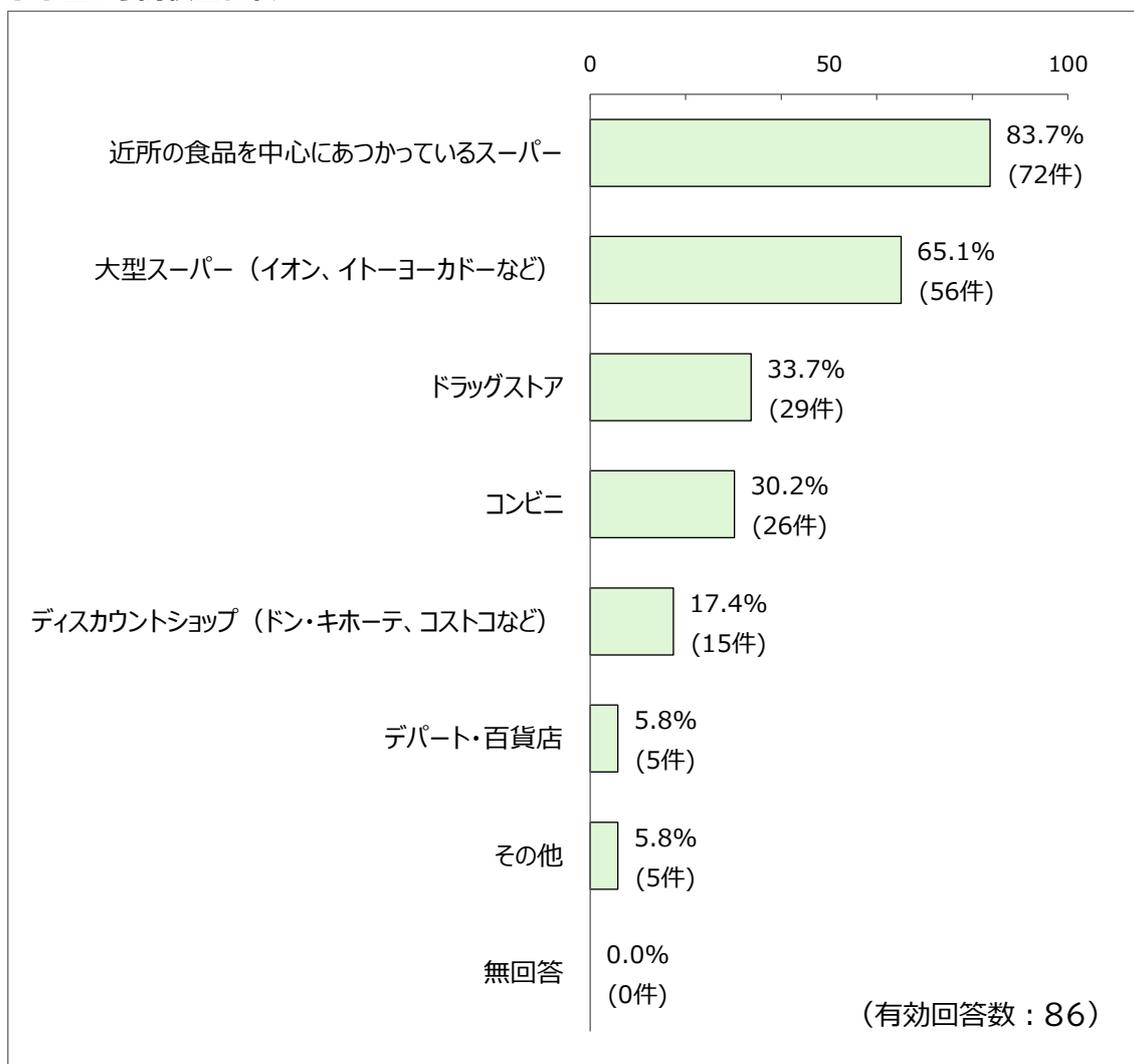
¹ 令和7年4月1日までに7歳から18歳になる方を指す。

² 令和7年4月1日までに19歳から30歳になる方を指す。

○調査結果

Q1. 普段どこで食品を購入しますか。(複数回答)

小学生から高校生世代

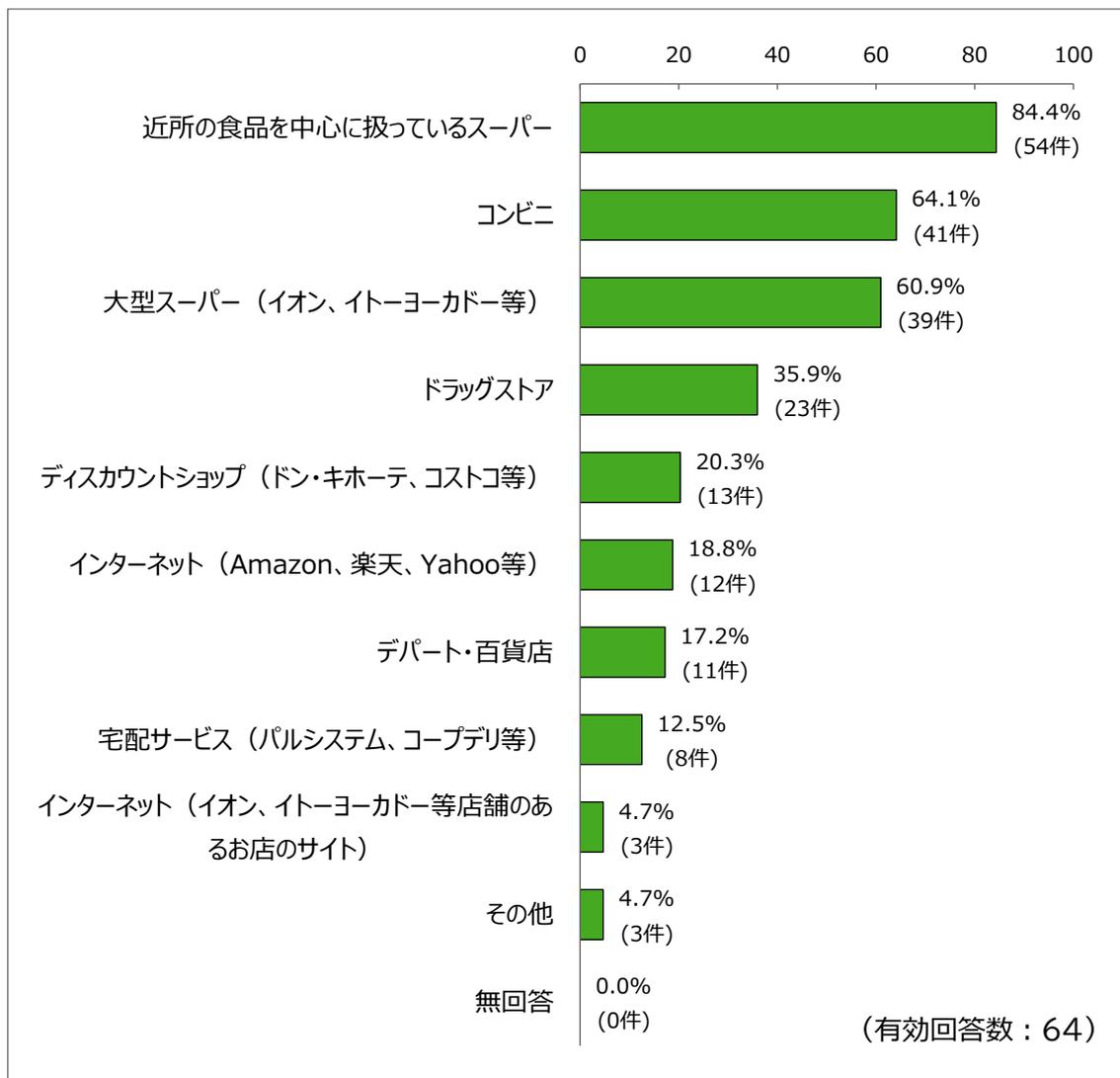


Q1. 「その他」の内容

小学生から高校生世代

- 直売所、道の駅
- 業務スーパー
- 近所の八百屋さんとお肉屋さん、お魚屋さん
- ネット
- ネット宅配
- パルシステム

大学生世代以上



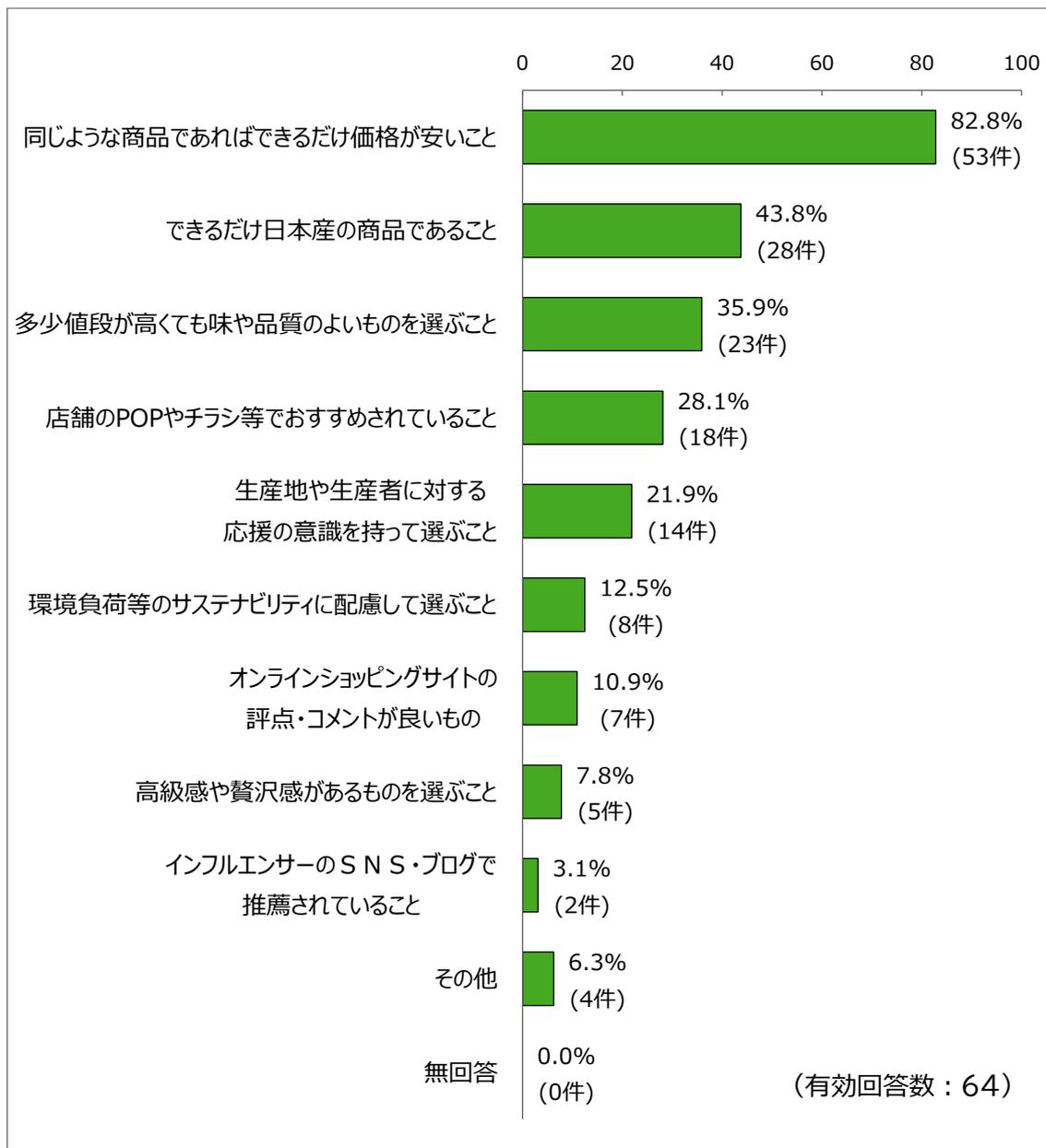
Q1. 「その他」の内容

大学生世代以上

- マルシェ
- OK ストア
- 道の駅

Q2. 食品を購入する際に、重視する点は何ですか。（複数回答、大学生世代以上のみ回答）

大学生世代以上

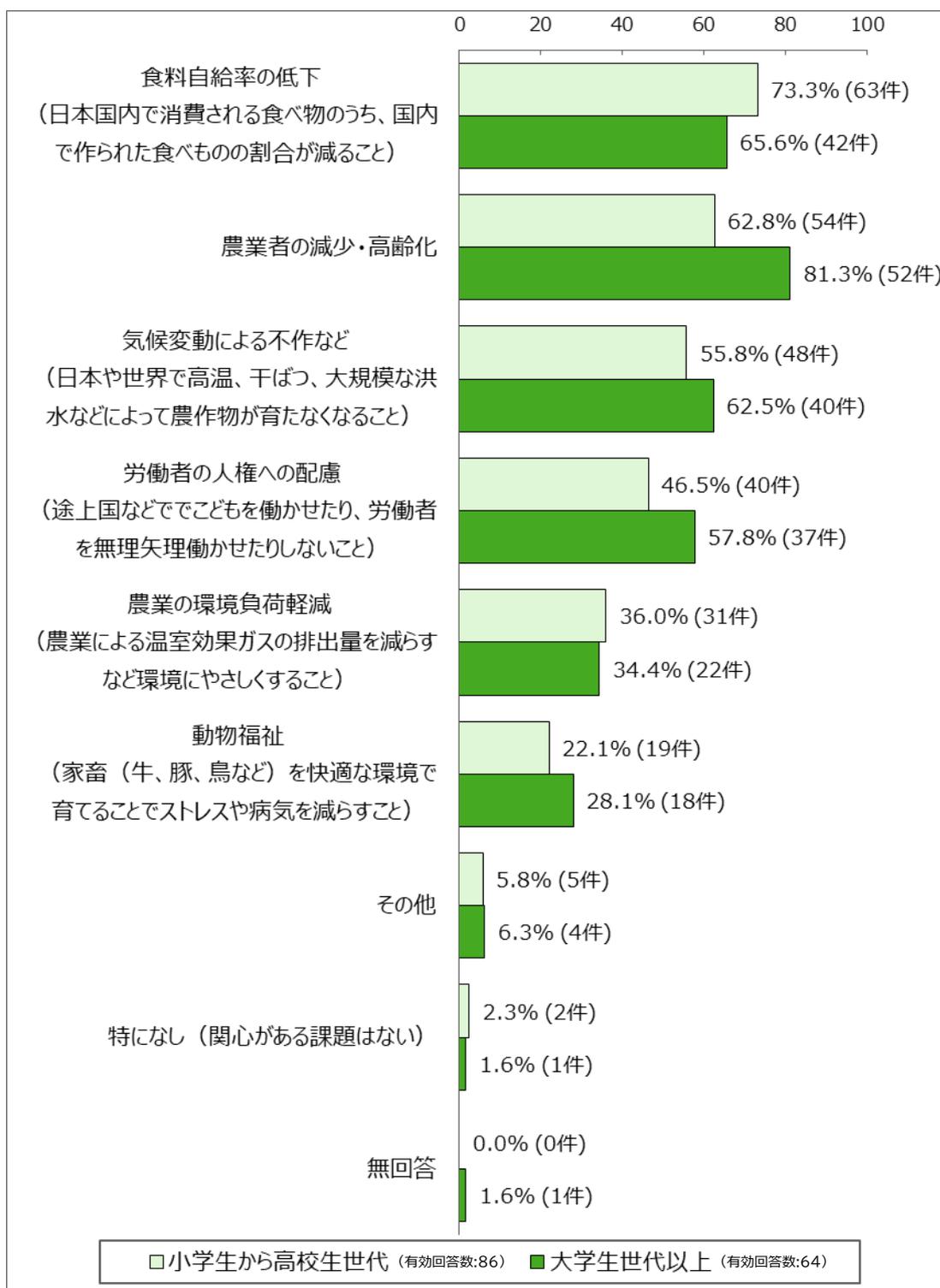


Q2. 「その他」の内容

大学生世代以上

- 家族5人で食べやすい量のもの
- 簡単に調理できること、糖質量
- 栄養面
- 生産行程に障害者が携わるなど多様な労働者の支援につながる

Q3. 「食」と「農」についての課題の中で、関心があるものを教えてください。（複数回答）



Q3. 「その他」の内容

小学生から高校生世代

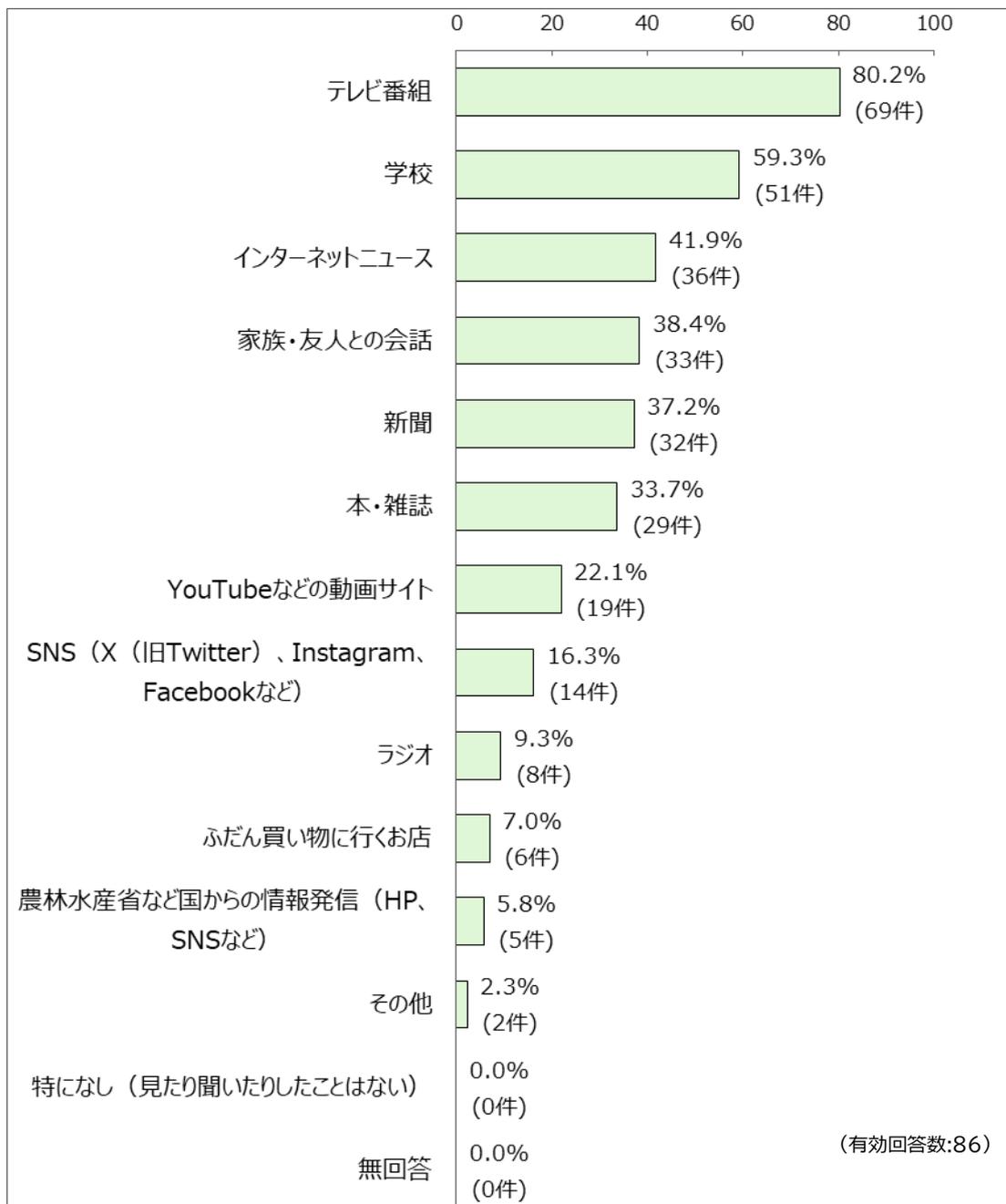
- フェアトレードや有機栽培など
- レストランや小売店での食品ロス
- 子供がごはんの材料を直接見たり触れたりする機会が少ないこと。輸入作物に農薬が多く使われていたり、フードマイレージが高く環境に悪かったりすること。冷凍食品や外食など、手作りの食事を食べるのが減っていること。
- 食と体系
- 人にとって害のある農薬の廃止や自然、環境に害が出る農薬の廃止。また、発展途上国などのフェアトレード商品。

大学生世代以上

- 緊縮財政によって農林水産行政への予算の割り当てが減って、食の安全保障が確保できなくなること
- 持続不可能でアンバランスな食料システムと、それがもたらす先進国の飽食・食品ロス問題
- 農業者の所得
- 農業者の労働時間

Q4. Q3のような「食」と「農」を巡る諸課題について、どこで見たり聞いたりしたことがありますか。（複数回答）

小学生から高校生世代

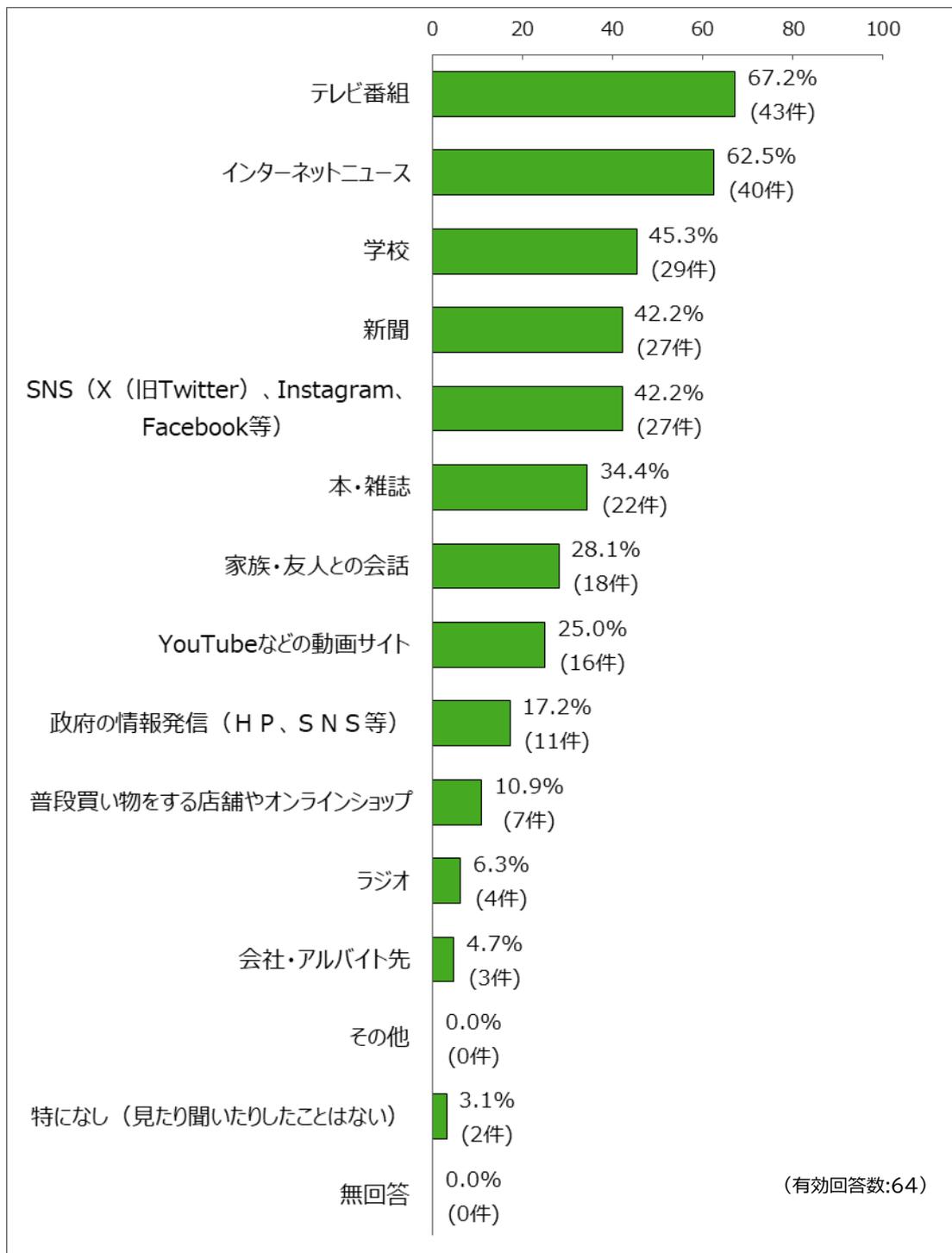


Q4. 「その他」の内容

小学生から高校生世代

- 自作農園を営んでいる先生
- 塾

大学生世代以上



Q5. 「食」と「農」を巡る諸課題について、多くの人にもっと関心を持ってもらうためには、どうしたら良いと思いますか。(自由記述)

小学生から高校生世代

- 出前授業など
- 学校教育で深く調べたり、話し合ったりする授業を作る。インターネットなどで有名人に発信してもらう。
- 学校では授業で先生が少し触れるだけなので、みんなで議論し考える時間が授業内にあるといいと思う。
- 地域の農家などの課題を抱えている人との関わりを持つために全国の学校に授業や課外活動などを課す
- 小学校の授業で農業体験を必須にする。大手企業が取り組みを宣伝する。
- 学校で、食育をする。
- まず知らないに関心も何も無いと思うので、その点から考えるとまずは学校教育などで食と農について学ぶ機会を作ると良いと思います。
- 学生を対象とする場合は学校の授業などで扱う。
その他の人が対象なら地域でフェアなどを開催する。
- 地域に畑がなく、農家の方と学校をオンラインで交流して農家の方と話してみたい。
未来の農業の作文や俳句・絵画を募集して、優秀な作品をおーいお茶の俳句のようにペットボトルに載せたり、お菓子や野菜のパッケージ、紙袋にプリントしたら目に留まって関心を持つ人が増えると思う。
学習用っぽくない食と農のアニメを見てみたい。
- 夏休みの宿題(親子で取り組む内容)にする。
食品パッケージにグラフを印刷するなど、手にとって見る物で伝える工夫をする。
儲かる仕組みを作る。
- 学校教育の中で、農業に触れ合う機会を増やす。(農家の話を聞く、コメを育てるなど)
- 学校の出前授業のようなもので、「食」と「農」について授業をし、1時間の授業の間で少しでも触れてもらえるようにする
- 食農教育を活発に行う
- 学校の授業でもっと取り入れる
- 何かもらえるようなイベントがあればいくかもしれない
- 農業体験
- 子供のための夏休みの農業体験など、実際に経験してもらうことを通して関心を持ってもらうのがいいと思う。
- 農業体験の中で教える。
食品のパッケージにコラムみたいな感じで社会問題を載せる
- 体験する

- 体験をできる場所を各地に作って食などに興味を持ってもらう。
- 身近に感じられるといいと思う
特に、地元の現状などをもっと知り、関われる機会があるといい
少し、手伝ってみたいと思う、人は考えてるよりもいると思う。
- 食事の時に食と農に触れる機会を増やす
- 農業に馴染みのない都会などに住んでいる人にも公演を開くなどして興味を持ってもらう
- 子どもや若者が農業に触れる機会を増やす
スマート農業のための研究について国が助成金を出しそれを宣伝する
- 自分で作る。まずは、情報を知る。でも、授業のように聞くのではなく、歴史漫画のように視覚的に知ったり、体験をすることで印象に残らせることができると思う。今は、まじめなものに食いつくひとの割合が少ないと思う。だから、YouTuber とかとコラボして、初めから知ってる人を通して発信する必要があると思う。また、これがヤバイですじゃなくて、実際のストーリー展開で物語のように語って頂けると分かりやすいと思う。
- 「食」や「農」に直接関わる体験をしてもらう。例えば、地域の食べ物だけでご飯を作ったり、1年間自分の畑を持って作物を育てて収穫、調理して食べる取り組みをしたりする。
- 稲作大会などを開く。
- 私(中3)は普段から環境学習を市内の小学生に行ったり、市の環境フェアなどで環境活動の発表をしたり、市民に呼びかけなど啓発活動をしている。その様な場(イベント等)を作り、知ってもらうとよい。
- 自分が口にする物を、買物してみる。
- お父さんが料理や食べものを買物をする。たとえば、台風の雨でトマトがあまりできないから、値段が高くなってることを知らない。
- 美味しい料理を作る。
- レタスお肉巻きを作る、やり方: レタスにお肉をいれる、おにくたれをつける。完成
- 食べ物を自分で作ってみる
一回断食してみる
農家体験会
- 断食させる
- 食の魅力をもっと広めて、美味しいと感じていただき、これからも食べたいと思ってもらってから人が集まる場所で課題を伝える
- 人目のつくコミュニティでの情報発信。身近に感じないと人は関心を持ちづらい。だから食や農に関する危険や課題など、視聴者側が焦りや印象が残る情報発信形式にしたらいと思う
- もっと自分事として考えてもらう。今日明日のご飯がなくなるかもしれないという危機感を持たせる
- 「安いから」という理由だけで購入することをさけ、「無農薬」や、「フェアトレード」など、少し商品が高かったとしても質の良い製品を買うことの大切さを広めることが大切だと思います。そし商品を売

る場や商品のパッケージに大きく「この商品は無農薬です」「この商品はフェアトレードです」のような売り手の工夫をすることが必要だと思います。

- なぜ関心を持ってもらいたいのかを具体的に知らせる。鳥インフルエンザの影響から分かりませんが、卵が高騰していると昨年ニュースで見ました。作物の育ちかたも地域や時期で大きな違いがあり、安定した需要があれば、安心した供給につながるのではとおもいます。そのためにも、どのようにどの目線が知りたいのか知らせてほしいです。
- スーパーマーケットにポスターなどを掲示する。SNS などを活用して、宣伝する。
- ポスターにして、人がたくさん集まるところに貼る。
- ポスターを作る
- ポスターなどを書いてショッピングモールにはったりすればいいと思います
- すーぱーなどに生産者のコメントを乗せて売ったりする。
- ストーリーのある看板を出す
食事や農業に関するゲームをつくる
実際に体験してみる施設をつくる
子ども達を働かせてお給料やお菓子を渡す
- チラシなどを作成し、学校など人がたくさんいるところに掲示する。
- もっとスーパーなど身近で、食品や食材を買う時に、目につくところで、課題についての呼びかけや、その農家が取り組んでいることなどを掲示すると良いと思う。
- 実際に食品を販売している店舗などで関連する課題をビラなどを配布する
- 食品価格の高騰が消費者側は関心が高い。その食品が高騰した理由をその場(スーパー等)で確認できるシステムがあれば問題意識を高めることが出来るのではないか。
- 芸能人などを使って電車などの広告を使う。
- 国からの情報発信を強める
学校で授業を行う
- 新聞なら大人が読んで関心を持つ
- 新聞の折り込み
- テレビなどでとりあげる。
- テレビや SNS の広告の活用
- SNS を駆使して注目をもってもら
- SNS で発信する
学校で「食」や「農」の説明と課題、これからの技術などを含んだ出前授業をする
- ・SNS で現状を発信する
・スーパーなどの小売店に現状についてまとめたポスターなどの掲示物を貼る
- Instagram のリールで映像とともに伝える。
地域の特産品を授業を通して植える～栽培する。
問いを決めて 2.3 週間でグループで情報を集める ▶ 発表する授業

- YouTube などのよく見る SNS サイトで発信すると良いと思います。
- Instagram などの SNS で 30 秒程にまとめた気軽に見れる映像を投稿し、周知を図る。
- 若い世代がこれらの課題について知ってもらうためには、SNS などインターネットを活用するのが一番良いと思う。YouTube ショートや TikTok、インスタグラムのリールなど、短い動画で少しずつ情報を流し、興味を持った人がそれに関連する長編動画に飛ぶことができるようにするべきだと考える。
- 農林水産省公式 SNS での広報発信や、各種小売店でのポスター展示など
- 若い世代がよく見ている YouTube short などに動画を投稿する
ワークショップを開催する
スーパーなどの食品売り場に課題に関するポップを取り付ける
- 食と農がテーマのマンガやアニメ、ゲームがあれば興味がわくと思います
- ゲーム感覚で学んでもらう。
- 住んでいるところでずいぶん意識は違うと思う。学校給食でも地産地消給食などがあって、とても楽しいので関心がわく。
- 政府が早く政策を出す
- 食べ物が無くなるということがどういうことかを知る

大学生世代以上

- 幼稚園、小学生向けの食育を行い、子どもから大人へ伝える形で広げてもらう。
- 学校教育（特に高校・大学）で出張授業を行い、農業や食の問題を自分事化できるようにする。単なる講義・リアクションペーパーでなく、ワークショップ形式で「もし自分が農家だったら..」「もし食料輸入がストップしたら..」という形で議論してみる。
- 日本では、食品が当たり前に入り、食や農について考える機会が少ない現状があります。義務教育ですら、食や農業への関心を持つきっかけが少ないのが現状です。学校での毎日の給食時間前に食育の時間を設けることで、子どもたちが食材に関心を持てるようになります。
また、スーパーで食品の栄養価や効果を分かりやすく表示する工夫も必要です。例えば、収穫の写真や育成過程を図で示すことで、消費者が農業に対しても興味を持つことができると考えます。このように、学校やスーパーでの工夫を通じて、食と農に関心を持ってもらうための取り組みを増やすことが重要です。今の当たり前から一歩踏み出し、関心を持つきっかけを作る必要があります。
- 小さい時から身近に感じてもらうために、農家体験、学校近くの農家に社会科見学
- 実際に農業体験を学校や会社でして、食べ物を育てる大変さや楽しさを知ること。(田んぼ体験や畑作り、畜産の見学など。)
- 教育機関等への出前講義など、学ぶ姿勢を持っている人に対して働きかけることが有効ではないか。
- 学校教育で扱う。tv 番組で扱う。

- 教科書で扱う
- 実際に体験できたり、SNS、ゲーム等身近に感じる事ができると関心を持つきっかけになる
- 農業体験を気軽にできる環境を整えて、まずは農業自体に興味を持ってもらう。
- ・農家の人と関わりが気軽に持てるような機会
 - CM の普及
 - 若者や働き世代の進路先として第 1 産業を選択肢として考慮されるよう就職支援を手厚くする。消費者側から生産者側へ移行することによって当事者意識が芽生えることを狙いとする。
- 子供の頃から触れること、だと思います。私は自然が多い地域の出身出身で、子供の頃から動物に触れ合う機会があったり、野菜を収穫したりしていたので、大人になってからも関心を持てていると思います。
- 体験会や家庭菜園などで自分たちで育てる機会を増やす。
- 食料危機を体験してもらうイベントを開催する
- こどもから社会人まで継続的な食育に力を入れる必要があると思います。机上やニュースで知るだけでなく、実際に農業等に従事されている方のお手伝いや話を聞くなどの経験がより重視されるべきです。幼児期からの大人との買い物体験、小学校以降の農業体験、家族や地域の人のために自炊をする経験など、私は親や地域に恵まれて都会育ちでも経験が多かったので食や農業に関心をもっているのだと思います。

大学生や社会人になると、どうしても安価で簡栄養に偏りのあるものや減量のために食事を抜くことなどが周りにも多く見受けられます。即席商品の CM の多い社会ですが、バランスの良い食事も農業の課題を簡単に知って行動を後押しできるように、生産者と消費者の間にある仲買業者もコンビニやスーパーの店頭ポップ等を活用して情報を広めるべきだと思います。
- 販売の際に問題を解決したり、配慮している商品は、そのことをアピールするべき。
- 「もし何か不測の事態が起こって、外国から食料が一切輸入できなくなったら？」というような事例でどれほど私たちの日々の生活に影響が出るのかをショートビデオにして、YouTube の広告などに流すことで、食料自給率をあげることの重要性を全ての国民に広く認知してもらう。
- コンビニやスーパーなどの廃棄問題や添加物問題をもっと大きく取り上げ国民全体の危機レベルを上げる
- 農業に対して高齢者が行うというイメージが多いので、若い農業従事者をアピールしていく

四国八十八か所のように、全国のご当地を巡る取り組みなど
- 売り場に現状を伝えるポップのようなものを置く
- 野菜や果物を売っている隣(目のつきやすい所)に課題について書いたものを掲示する
- 売り場や公共交通機関などで広報する。公式 SNS からの発信(農林水産省の YouTube が話題になっていたのを覚えています)
- インフルエンサーなど有名人の力を借り、若者に関心を示してもらう。
- ①インフルエンサーに問題を発信してもらう

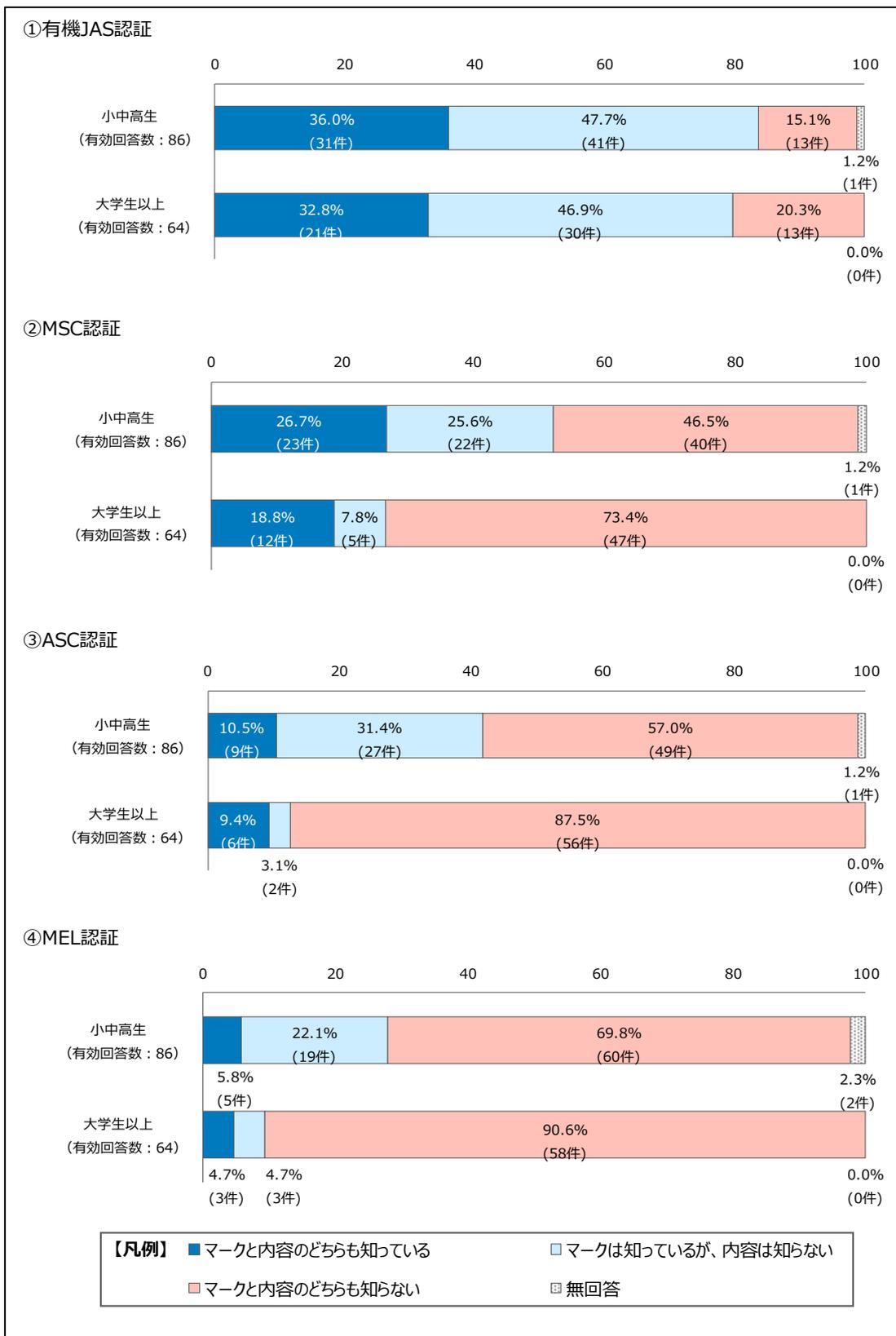
- 取り組みをお金がある人以外もできるようにすること。「良い」とされる食品は高価で、困窮していない人でも日常的に買えるものではなく、無力感を覚えている。
- 私は良いもの、地産地消のものが買いたい。しかし、それを買う余裕はない。学生や 20 代の若い人が良いと思うものを、買えるように賃金をあげること。良いものを選べる環境になったら、より問題について、しらべたり考えたらできるようになる。
- 広報もよいですが、一人一人の給料が上がることで、自ずとエシカルな消費ができるようになると思います
- SNS にいるトンデモ系インフルエンサーが多くてうんざりしています。栄養や農薬、添加物に対する誤った知識の発信に対して、なんらかの規制が必要だと思います。
- 公務員を増やし、議員報酬を高めることで、現場の声を公務員や議員が広く聞き、議論して、発信できる時間的経済的余裕をもつこと。また、給食や食育などを通じ日本の食文化に誇りを持たせること。
- ここ数年、大手スーパーなどで環境に配慮したエシカル商品やフェアトレード商品、素材や産地にこだわった食品やお菓子などの取り扱いが増えて関心を持つ人が増えたと思う。
 数年前(2020 年ごろ)まではオーガニックショップに行かないとそういう商品は扱っていなかったし、値段も普通の商品の倍くらいしていた。また、海外のメーカーのものがほとんどで国産のものは少なかったが、イオンやライフなどで扱いが増えて買いやすくなったうえに国産商品や日本のメーカーのものも増えてきたので、大手企業が商品を出したりすることで簡単に買えることや顧客、リピーターを増やすことが大事だと思った。また、イオンのグリーンアイやライフのビオラルはオーガニックショップのものに比べて値段が高くないことも良かったと思う。
 最近だと、たまたま行ったファミレスのドリンクバーの紅茶やコーヒーにもオーガニックやフェアトレードの紅茶、コーヒーが使われるようになっていて、すごく広まっていると感じる。普段利用しているサービスなどで身近になることが重要だと思う。
- ①食料自給率の向上向け教育機関公共施設で提供する、食料自給率低下のリスクを授業で
 する。
 ②少子高齢化に関しては JA などと協力し生産者と交流を増やす。
 ③農福連携を TV 、教育機関、福祉機関で広める
- 体験施設を作る
- 日本でとれた食べ物だけで、どんな食事を作ることができるのか、検証してみる。

Q6. 食品には認証マークがついたものがあります。次の認証マークについてどの程度知っていますか。
(単数回答)

認証マークの一覧

<p>①有機 JAS 認証</p> 	<p>②MSC 認証</p> 
<p>③ASC 認証</p> 	<p>④MEL 認証</p> 
<p>⑤RSPO 認証</p> 	<p>⑥FSC® 認証</p> 
<p>⑦国際フェアトレード認証</p> 	<p>⑧レインフォレスト・アライアンス認証</p> 
<p>⑨ノウフク J A S 認証</p> 	<p>⑩持続可能性に配慮した鶏卵・鶏肉 JAS 認証</p> 

各認証マークについて知っていること (1/3)

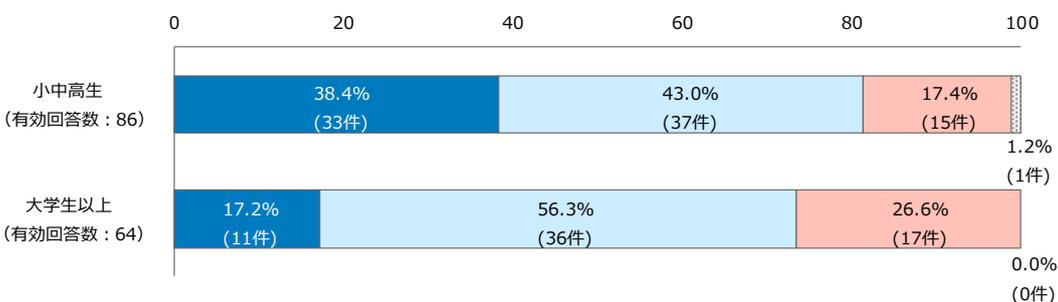


各認証マークについて知っていること (2/3)

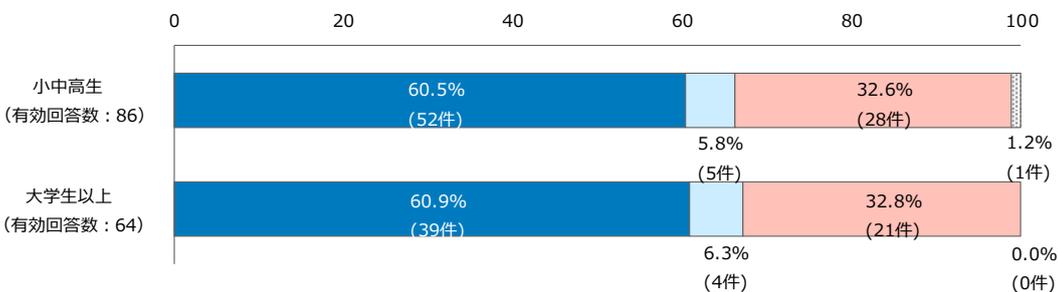
⑤RSPO認証



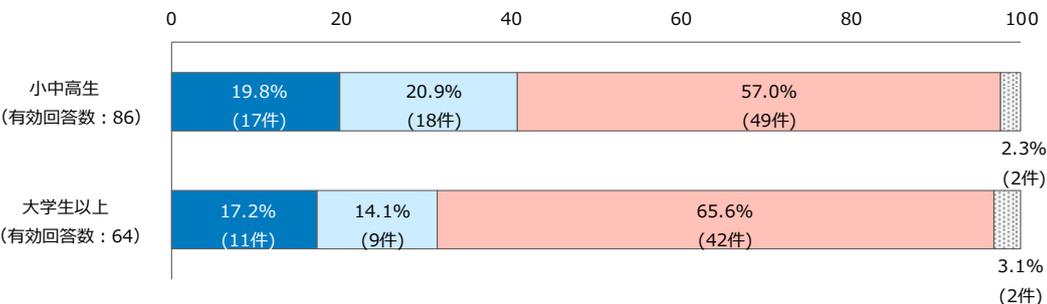
⑥FSC®認証



⑦国際フェアトレード認証

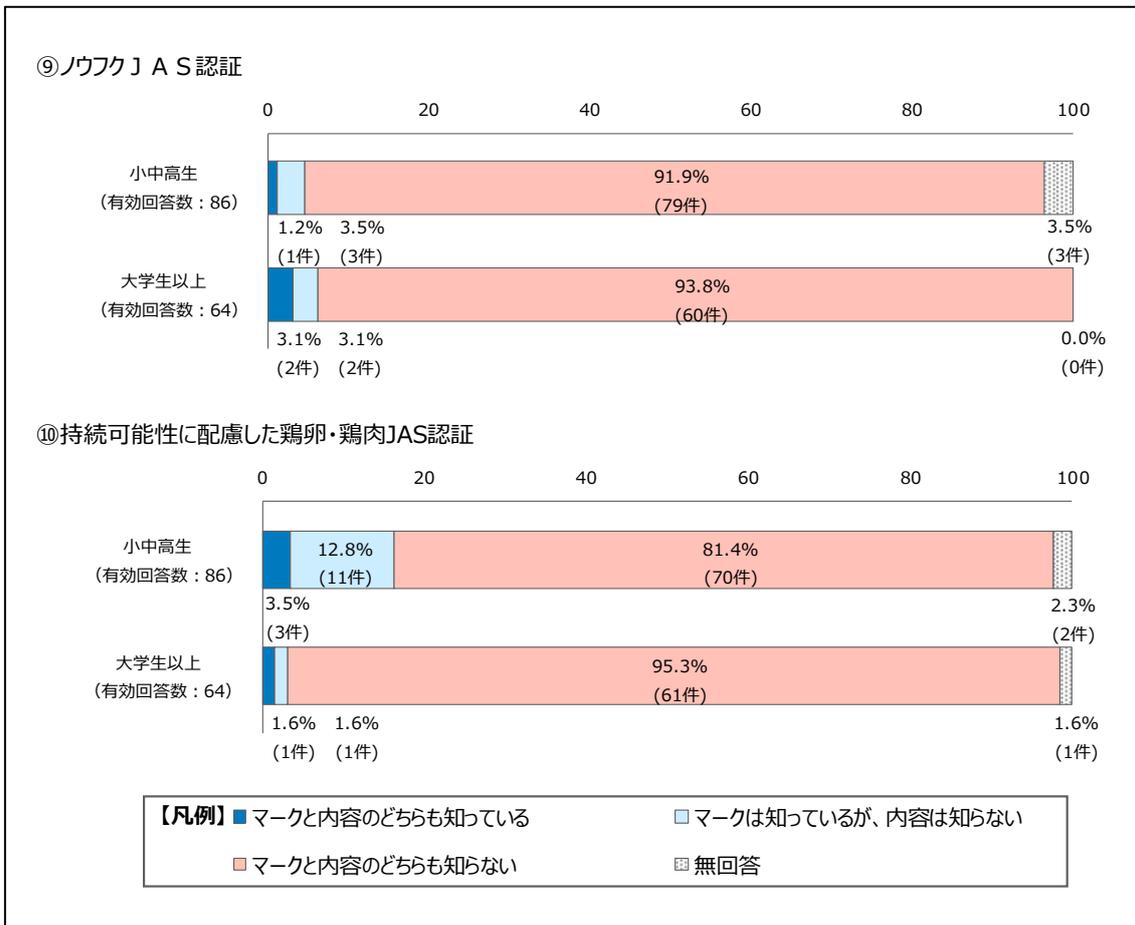


⑧レインフォレスト・アライアンス認証



【凡例】 ■ マークと内容のどちらも知っている □ マークは知っているが、内容は知らない
 ■ マークと内容のどちらも知らない ▨ 無回答

各認証マークについて知っていること (3/3)



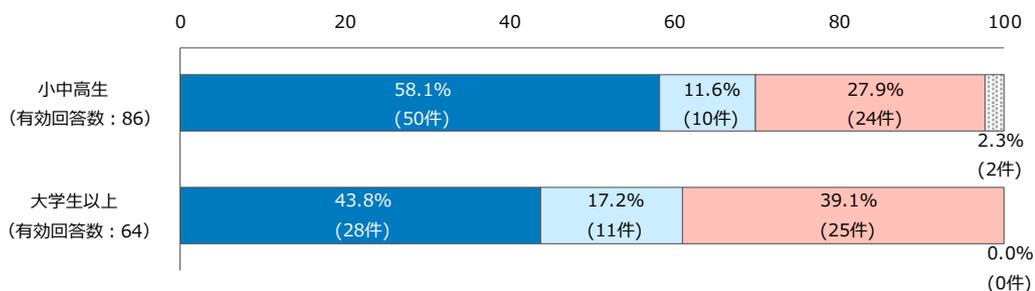
Q7. 次の認証マークがついている食品を身近な場所で見かけたり、選んで購入したりしたことはありますか。(単数回答)

認証マークの一覧

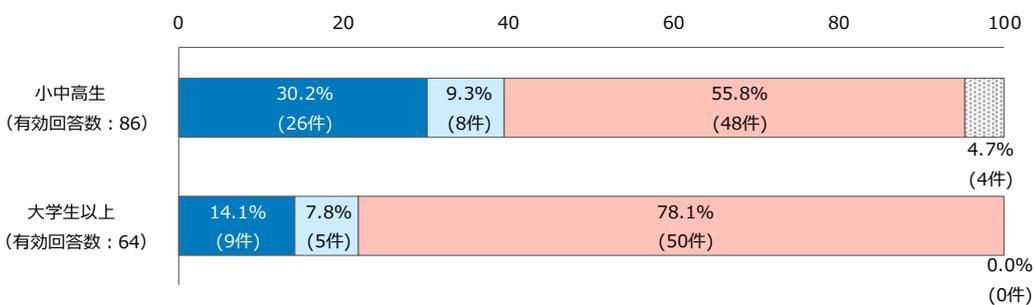
<p>①有機 JAS 認証</p> 	<p>②MSC 認証</p> 
<p>③ASC 認証</p> 	<p>④MEL 認証</p> 
<p>⑤RSPO 認証</p> 	<p>⑥FSC[®] 認証</p> 
<p>⑦国際フェアトレード認証</p> 	<p>⑧レインフォレスト・アライアンス認証</p> 
<p>⑨ノウフク J A S 認証</p> 	<p>⑩持続可能性に配慮した鶏卵・鶏肉 JAS 認証</p> 

認証マークがついている食品を見たり、選んで購入したりした経験（1/3）

①有機JAS認証



②MSC認証



③ASC認証



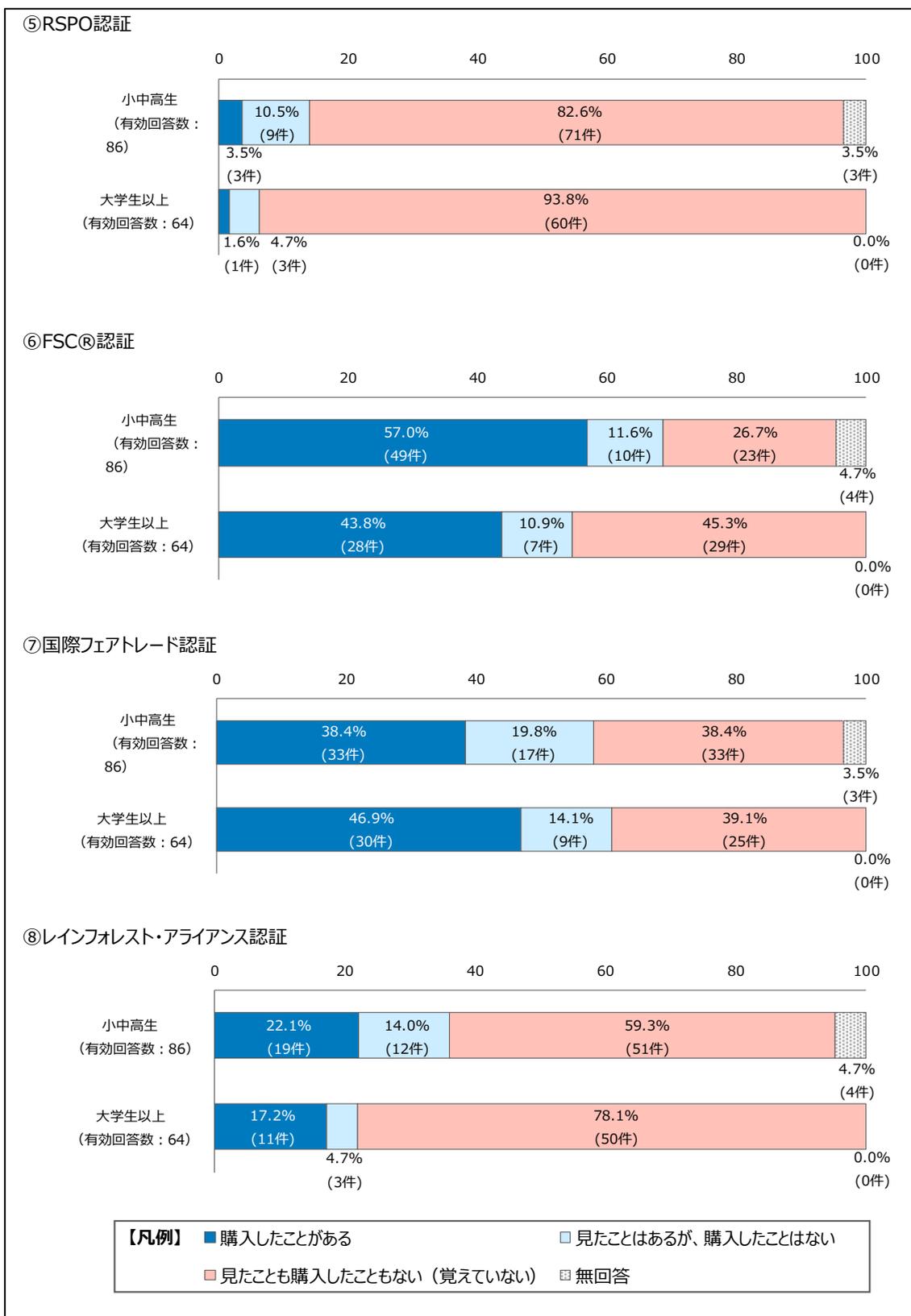
④MEL認証



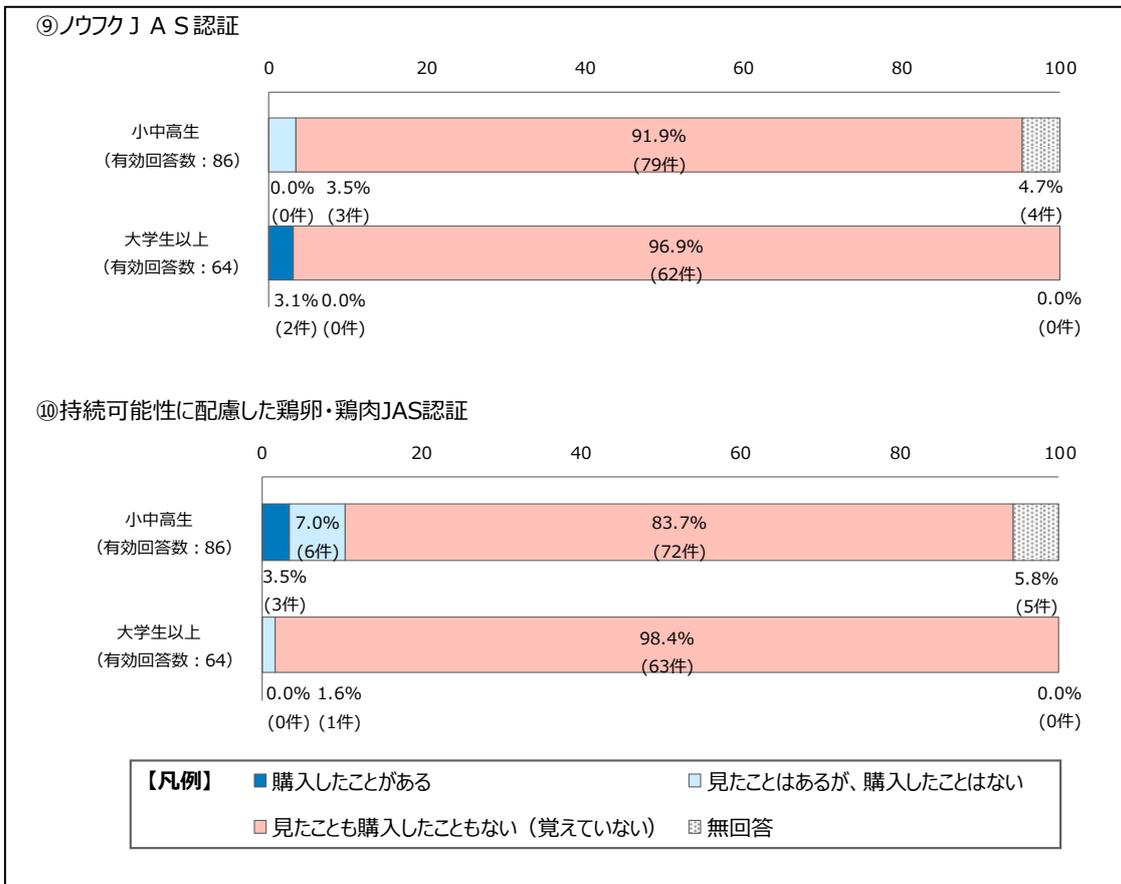
【凡例】

- 購入したことがある
- 見たことはあるが、購入したことはない
- 見たことも購入したこともない（覚えていない）
- 無回答

認証マークがついている食品を見たり、選んで購入したりした経験（2/3）



認証マークがついている食品を見たり、選んで購入したりした経験（3/3）



Q8. Q7で1つでも「購入したことがある」と回答した方にお聞きます。認証マークがついている食品を購入した理由は何ですか。（自由記述）

小学生から高校生世代

- 普通に選んだらそうになっていた
- 買った食品にたまたまついていた
- 買ったものにたまたまついていた。意識して選んでいなかった。
買ったものにたまたまついていた。フェアトレード等は学校で習った知識として知っていた。なので、記憶に残っているのだと思う。
- なんのマークが知らなかったが地球に優しそうだったから。買ったものにたまたまついていた。
- 偶然ほしい商品に認証マークがついていたから
- おそらく、マークを理由として買ったのではなく、安かったから
- たまたま
- ただ買っただけです
- 買ったあとに、マークがあることを気づいた。
- 買うものの中に含まれていたから
- その食品を食べたかったから。安かったから。
- 必要な商品だったから。
- マークがあると知る前から欲しい商品であったから
- もともと書いたかった商品にそのマークがついていた。
- 欲しかったから
- 特に意識せず買って、後から気づいた
- 特に意識していなかった。
- マークを見て買ってはいない
- 認証された食品だから
- 他の商品より安心、美味しそう
- 安全だから、美味しいから、地球に優しいから
- 美味しそうだったから。
- それを買ったことでなにかの役に立てたり、少しはいいことしたかな？というそのマークについての情報を知っていたから
- その取り組みをしている商品を買うことで、少しでも環境に負荷がかからなくなればいいなと思いました。また、そのようなマークの商品を買うことにより、その会社や業界に消費者はこういう商品に投資したのだ、もっと作ろう、と思って環境に良い消費が循環して欲しいと思いました。
- 他の同じような商品と比べて値段は高いですが、少しでも環境にやさしい買い物をしたいと思って購入しました。
- マークがついてるのを見ると、地球に優しいのかなと思い同じような商品でマークがついていないものより買おうと思うから。

- 環境に優しい商品を買うことで少しでもエコ活動につながるとよいと考えるから。またグリーンコンシューマーとして活動しているから。
- 環境に負荷がかかってほしくないから。
- 環境に配慮しているもの、フェアトレードのものなど、同じものを買うときに少し値段が高くても素敵な活動をしているものを買いたいと思うから。
- 環境(特に持続可能性など)に配慮してそうだったから。
- 誰かのためにならと思ったから
- 生産者の人権が守られていそうだから
- 少しでも力になりたいと思ったとき 1 番身近で手軽だと思ったから。
- 少しでもより良い事をしたいからです。大衆の消費者の何気ない行動が世に影響を与えて思うので、そのような一人一人の意識した行動が大切だと思います。
- 持続的な養殖を応援したかったから
- 学校で販売していたから
- 学校でフェアトレードについて学んだから。
- 授業で習い、買ってみたかったから
- 授業でそのマークについて学んでいたから。
- 学校でちょうどそのことを習い、気になったから
- フェアトレードを通して、途上国支援がしたいと思ったから。自分達も、フェアトレード商品の消費拡大を目指して行動したいと思い、中高生で企画、販売を行うプログラムを行ったことがある。
- チョコレートが好きなので、フェアトレードの商品を買うことによって、生産者にお返しをしたいと思ったから。
- ⑦国際フェアトレード認証：フェアトレードについて学校で学習し生産者の為になると知り、友達がカルディやイオンでフェアトレードのチョコやコーヒーを買った事があると話していて、見に行ってみたら動物の可愛いイラストのパッケージだったので買った。
- フェアトレードは学校で学んだから買った。
- フェアトレードの勉強をみんなですて、買いにいってみようと思った。
- 海のエコラベルは、生協のお店でみて、母が購入していたように思います。はっきりと覚えていません。フェアトレードやレインフォレストは身近な商品に印刷されていることが多く、購入することがあります。その国の生産者を応援すること繋がればと思います。地産地消と同じ感じです。
- ノートを買う時にたまに付いている

大学生世代以上

- 偶々
- たまたま欲しかったものについてた
- たまたま
- 購入したいと思った商品に偶然ついてた。

- 買いたい商品についていたから
- 買いたいものについていたから。フェアトレード商品だとちょっといいことした気持ちになった。
- その商品自体を魅力的に感じたから。マークの有無も検討材料にはするが、基本的には価格や質で選ぶ。フェアトレードはマークを気にしていたが、最近はや言葉自体あまり聞かなくなったのでマークも形骸化しているように見える。マークが着いていない方が生産者にフェアな取引をしているという俗説も気になる。
- その商品が欲しかったから
- その商品が食べたかったから。(マークは理由では無い。)
- 特に理由はない。
- 特に認証マークに関する理由はなく、購入した商品にマークが付いていたのを覚えていただけ。
- マークは気にせず購入している。購入の際に気にするのは「値段＞産地＞原材料＞(マーク)」であり、認証マークを基準するほど知識がない
- 品質が高そうだったから
- 丁度食べたいと思ったから、品質が良さそうだったから、パッケージがオシャレだったから。
- 安心な食品に見えたから。
- 美味しそうだったり安かったから
- 紅茶やハーブティーが好きでよく買うが気に入っているブランドのものにこのマークがついているものがあって購入した。JAS マークやレインフォレスト、フェアトレードのマークがついているものは香りが良く、美味しいと感じる。
- せっかく買うなら環境に配慮したりしている商品を買うことで、生産者を応援したいから。
- 地球をより良くするための活動を少しでもサポートしたいから。
- 環境のため
- 社会問題の解決や認証マークを意識して買ったから。よく購入している物にたまたまマークが付いていたことがあったから。
- 自分も一消費者として、環境や人に良い取り組みに貢献したいと思ったため。
- 国際問題をテーマとしたサークルが学園祭でフェアトレード商品を販売していたから。
- そうでないものを買うことに罪悪感があったから、親にお金を出してもらえたから。
- お腹を満たすためでもなく、贅沢品を食べるのに、それが児童労働の産物だと知っては、美味しく食べられないから。ただしフェアトレードも中抜きがあると聞いたことがあり、よく分からない。
- 経済活動は市民が政治参画できる手段であり、資本家などに対し「労働者や自然環境の搾取に加担しない」意思表示が必要なため。また、その意識を周囲に示し、賛同を呼びかけるため。
- 学校の授業でフェアトレードについて勉強し、自分にできることを少しでもできたらいいなと思ったから。
- 学校でフェアトレードを学習した後で関心があったから。
- ネットや授業で習って買って見た。他の人に伝えるために買って見た

- フェアトレードマークは中学校の英語の授業で習い、「私も途上国の人の役に立つことができる」と知り、海外研修のお土産で初めて自分の手で取り購入したことを強く覚えています。
- フェアトレードに自分が貢献できるから
- フェアトレードについて中学の英語の授業で学んでから、チョコレートはフェアトレード製品を買うようになった。
- ローソンのコーヒーにレインフォレスト・アライアンスが付いていたと思いますが、ローソンのコーヒーが好きだから購入して、そのカップでマークを知りました。
- 認証マークがついていてもそこまで高すぎないから。

Q9. Q7で1つでも「見たことはあるが、購入したことはない」と回答した方にお聞きます。それはなぜですか。（自由記述）

小学生から高校生世代

- 値段が高かったから（2件）
- 値段が高かったため。
- 値段が高い、ほかの魅力がない
- 学校でフェアトレードの存在を知ったが、他の商品よりも値段が高かったから
- どのようなマークか知らなかったから。
- マークについてよく知らなかったから。
- マークの意味がわからなかったから
- マークは知っているが、内容は知らなかったから。
- 知らないから
- 買い物をするときに、この問題の背景や買うことによってどう変わるのかが瞬時に読み取れなかったから
- そのマークの付いている商品が、欲しいと思わなかったから
- その時に必要なものではなかったから
- その商品を求めて買い物へ行ってなかったから。
- その商品以外の物が書いたかったから。
- いらなかったから
- 買いたいものについていなかったから
- 買い物にあまりついていけないため。買う機会がないため。
- 他に欲しいものがあったから。
- みたが今欲しいものではなかった
- 必要ないと思ったから
- 別にいらぬ商品だったから
- たまたま買った商品がそうだった
- ふと目についただけだからです。
- マークの有無が購入の意志に影響しなかったから
- それがついていても買う理由にはならないから
- マークを見ても、買う直接の決めには至らなかったから。
- 環境マークに関する本を持っているのでそこで、マークだけは知っていた。しかし、マークがついている商品を見かけていないから。
- 買う機会がない
- 学校、本で見たことはあったけど、お店で売っていなかった
- 知識として、そのマークの事を知っていたが、実際に買い物で見かけたことはないような気がするから。

- 覚えてない。パッケージに字がただでさえ、沢山書かれていて一つ一つ読むのが大変なのに、マークまで気にする余裕なかった。とくに急いでたりすると。
- 覚えていないため
- 特になし
- 特に気にしていないから。正確には、買ったかどうか覚えていません。
- あまり商品を買わない
- ママとスーパーと一緒にいった時に何となく見たことがあった気がした

大学生世代以上

- マークが無い商品の方がとても安かったから。
- マークがあることよりも安さを優先するから。
- 値段等(マークを特に気にしていない)
- めちゃくちゃ高い
- 価格が高いから買えない
- 高いから
- 高いから、必要ない商品だったから、マークはウォッシュ（グリーンウォッシュなど）だと聞いたことがあるから。
- どのようなマークであるかあまり知らなかったため。
- 内容がわからなかったから。
- 購入予定の品ではなかったため。
- いちいちマークをチェックしていない部分が多い。
- マークがついている商品を購入したことはありますが、マークの内容を考えながら購入したことはありません。
- 認証マークを意識して買い物をする機会が少ないため
- 購入の判断材料にしていないから
- その認証マークを見たことがない
- マークが目立つ商品が少ないので分からん。後フェアトレードと言う単語と認証の存在は知ってたがマークは知らなかったので「マークは知らないが内容は知ってる」的な選択肢欲しかった
- 買う機会がなかった。また普通のスーパーで売ってない
- 滅多に見ないから
- あまり見てはいませんが、私は、普段から安全な食品があれば購入するという派です。外国の食品も食べたいという気持ちはありますが、やはり、「日本産の食品の方が安全かな？」というぐらいですね。
- そうでないものが悪、とまで思えなかったから。

Q10. どのような情報や取組があれば、認証マークがついた食品を購入する、又はもっと購入しようと思
いますか。(自由記述)

小学生から高校生世代

- お店でマークの説明があるチラシを見られたらその場でも買おうかなという気持ちになると思う。知らないことを少なくするために目につきやすくわかりやすい場所で発信することが良いと思う。
- 「認証マークのいいところ」をポスターにしてお店に置く。
- お店で放送する、お店の人が紹介する実演する
実際に無料で渡して使ってもらう
- お店に認証マークはどんな商品に付けられているか、どんな問題の解決につながるかを記載したPOPを設置する
- スーパーで認証マークが付いている商品の近くにマークが付いていることとマークの説明がポップのようなものについていたら関心を持つと思う。スーパーに認証マークエリアを作り認証マークごとに商品を並べる。その際、マークの解説もする。
値段を見て買う傾向にある人も多いと思うので認証マークの付いた食品を買おうキャンペーンをしたらいいと思う。
- そのマークについての説明が近くに書いておく
- マークとその意味を、それが着いている商品の近くで大きく掲示する。
- 価格が高いイメージがあり、認証マークの付いた商品は付加価値があると意識して貰えるポスターを作り、駅や電車の車内広告、食料品店や食のイベントで掲示して知ってもらえるようにする。
- ロゴについてのパンフレットやチラシを商品の近くに置いておく。
- 店内のPOPやサイトの商品説明画像の1つでマークの意味を教えてくれる。
- 大きく認証マークを提示する。例えばスーパーなどの商品説明の隣に認証マークの紹介など。単純接触効果で認証マークを見かける回数が増えれば自然と認知度が上がると思う。何度も見かけさせるためには否応なく視界に入ってしまう様なかたちにしたほうが良いと思った
- マークの意味をかわいいポップにまとめる。マークを可愛くオシャレにする
- 認証マークが小さくて説明がないと、購入しても覚えていません。近所のコープでは、東日本応援企画などのときに、マークの説明があったような気がします。イオンやゆめタウンなどでも同様の取組みがあればいいと思います。市や県が積極的に広報して、スーパー全体で同じ企画をすると周知に繋がるとおもう。
- ○○は環境にやさしいという情報
- その商品が自分、相手両方に得になると感じるもの。とくに、日本人は相手の為に何かをしたいという気持ちが働きやすいので、そのような知識や経験を持っていれば買うと思う。
- その認証がどういう意味を持つのか、認証がある商品のほうが良い点は何なのかをもっと知ってもらう
- 認証マークの物を買うことでどんな良い影響が与えられるか。

- マークがついている商品を買うことで、どのようなメリット(よい点)が、何に対してあるのかわかるようにする。特に、・スーパーなどの小売店にポスターを貼る・商品のパッケージの、マークの近くに、このマークがついている商品を買うことで生まれるメリットをわかりやすく書く
- そもそもよく知られていないであろう認証マークが多いのでその周知をする。ex)ポスターやパンフレット, 授業の活用など
- 認証マークが着いている商品を買うことのメリット
- 買うことでどのようなメリットがあるかどうか。
- 食品への意識があればもっと買うようになると思う 売り場にこのような認証マークがある食品をまとめて並べる
- 認証マークについて、全く知らないなので。まず認証マークについての説明をする
- 認証マークについて特に知らないなので、買ってもらう前に、まずはどんなものなのか、を説明したほうが良いと思います。
- 認証マークの意味の説明：その商品を買うことでどのような良いことにつながるのかの説明
- そのマークの意味がわからないままでは、選択に影響しないから、マークの周知が第一の課題だと思う
- そのマークの意味を知ること
- マークの意味を知らせる
- マークをわかりやすく教えてもらう
- 知識がなければ買おうと思わない
- まずその存在を認知させる
- マークの存在や意味、意義を理解できるような取り組み
- そのマークを取得するのに必要な努力を知る
- 宣伝(ポスターや CM など)をする。
- 現在の問題を広告などを使って広める。
- テレビや SNS の広告の活用
- もっとそのマークについてのメリットやいいことを SNS などを通じて発信する。
- TV の CM でやったり、マークをもう少しわかりやすいところに貼ってほしい
- YouTube や TikTok で動画を作る
- マークと一緒に写した写真を Instagram にあげると、関連商品が抽選で当たるキャンペーンをする。
- マークの意味がわかるようにテレビやネットでとりあげる。
- マークを知るイベントをする
- マークがどのような意味を持つのか、またそれを買うことでどのような効果があるのか、などについて学校教育で学ぶ機会があれば良いかと思います。また、学校を卒業した大人の方にも知っていただくためには社会教育としてオンラインで学べる環境を整備することも大切だと思います。

- まず認証マークについて知ってもらう。文部科学省と協力して、学校教育で取り扱う(家庭科で JAS は学んだが、それ以外は教えてもらった記憶がない)
また、そのマークの物を買うことでポイントがたまるなどの特典をつけるか、ベルマークみたいな感じの
ことをする。
- 学校の家庭科で、いくつかのマークを習った。ただ、テスト勉強で覚えるだけではもったいないと思
う。例えば、フェアトレードだと実際に、途上国の人の話を聞くなど、授業で少し触れるだけではな
く、もう少し踏み込んで、記憶に残るような学びがあれば、無意識に、考えながら買い物ができる
ようになる
- 学校の教科書に掲載し、学生の周知を図る。
- 学校や公共の場で学ばせる
- 認証マークについて家庭科で学ぶことを義務にして、知ってもらう。
スーパーで認証マークがついた商品のコーナーを作る。認証マークがついた商品だけを売るイベント
を開催する。
- パッケージにマークの意味などを書けばいいと思います
- マークの意味を一緒に書いてほしい。
- マークをもっと大きくしたらパッと見える
- もっと詳しく書く
- もっと面白いマーク
- パッケージがお洒落でデザイン性があると意識が高い人や目新しい物が好きな人に手にとって貰え
ると思う。
- 安いものを購入しがちなので、めだって高いと購入できない。
- 価格が高いから。
- 家計に余裕ができたなら？
- 例えば、フェアトレードの取り組みをしていない商品が横に並んでいると、値段に惹かれてどうしても
そっちを買ってしまうと思う。だから、そういう商品をすこしでもなくしていく事が、認証マークのついた
商品を多くの人を選ぶことにつながると思う。
- 補助金など出してもう少し安くして欲しい
マークが付いている事でどんな事があるか知れるような情報が欲しい
- 値下げ 農家や漁師の負担にならないよう行政が補助する
- 認証マークがついた商品を購入した場合その商品の消費税を 8.5%まで減税する
- パンなどのマークのようにマークを点数にして応募したら、景品などがもらえるような企画をする
- キャンペーン
- スーパーマーケットにマークがついている食品を増やす。
- マークのついていないものを食べても意味がない、嬉しくない気持ちを家族で共有する

- 私は環境学習の際、「環境マークみつけ！」と題しマークのついた商品を見つけたり、意味を調べたり、好きなエコマークをおすすめしたりする活動をしている。マークをコラージュして家に飾り、参加した子の家族も興味を持つようにした。そういう取り組みをすることで意識できる。
 - もしかしたら、自分が知らないだけで身の回りにもっと認証製品があるのかもしれないけど、大きく書いていないし、商品の表に書いていないことも多いから、認証製品だと気づかずに買い物をしてしまっていることもあるかもしれないと思った。だから、もっと認証製品がついているという事をアピールすることが必要だと思う。
- また、認証マークがついた製品を買う事で、購入者側にメリットを感じさせるような取り組みもいと思う。例えば、三つ以上認証製品購入で 5 パーセントオフのような取り組み。
- そして、認証製品を買った人も、何がどのぐらい行かされているのか、いくつ認証製品を買ったのかわからないことが多い。だから、レシートに「あなたが今回購入した認証製品の数は 5 つです」のような記入を加えたり、商品の何パーセントかが募金に回される商品を購入した時に AI が自動で募金額を計算して、「あなたが今回、買い物で寄付したお金は 50 円です」のような記入をレシートに加えることができたらいいと思う。そうしたら、寄付も身近になって意識が少し変わると思う。

大学生世代以上

- そのマークがついた商品を売っている場所の近くにそのマークについての説明を分かりやすく書いたポップを置く。
 - マークについての説明がスーパーで POP やチラシなどあれば興味を持つと思う。
 - ロゴの意味を分かりやすくポップにして書いておき、それを対象商品の近くに置く。
 - マーク一覧がスーパーのコーナーに貼ってある。まずは知ってもらう
 - マークの意味を表示したデカイボードなどを店内入口や陳列上部や床などに掲示する事で、そのマークの有効性に気づき理解し購入の際の判断材料となる
 - 店内にそれを説明するポップがあること。それらのマークがついた商品を買うとポイントカードのポイントがたまりやすいこと。
 - 売り場に「このマークはこのような意味があります」とポップを作りそのコーナーが、あると心理的に買う人が増える
 - そもそも、認証マークをついた食品をわざわざ選ぶメリットがない。そのため、購入しようと思うことが家庭内での基準や信条、即ち各個人の意識の問題になる。取組以前にわざわざ選ぶことによるメリットの提示を各メディアや SNS、スーパー等で提示すべきだと考えられる。
 - そもそも認証マークがついた食品を購入するメリットが不明です。もし認証マークがついた食品をもっと購入した方がいいのであれば、学校の授業で学ぶ機会を提供することが重要です。また、スーパーなどで認証マークの説明やそのメリットを表示する表を設置することも必要です。
- 現在、認証マークはパッケージの目立たないところに記載されているため、消費者がその存在に気づかず、認証マークがついているから買おうとは思わないのが現状です。そのため、商品名や金額が記載されている棚札に認証マークを表示するなどの工夫が必要と考えます。

このような取り組みを通じて、消費者が認証マークの意義とメリットを理解し、認証食品の購入を促進できると思います。

- マークがあっても高いと買おうと思わないため、環境や問題に配慮しているなど実感のない利益以外を得られるとよさそう。
- 認証マークの付いた食品は優れている証なのですか？もしそうだとしたら、それを根拠をもって広報する必要があると思います。
- 特定健康食品のように、私たちの暮らしにどう影響を及ぼすかわかればいいなと思う。
- 認証マークがついた食品を購入することで、消費者や環境にどのような利益があるのか明確に知りたいです。また、マークの意味や生産から購入後までの社会的な流れをわかりやすくイラストにして、店頭やネットの目につくところにあると理解がすすむと思います。
- 問題の具体的なエピソードや今後の存続危険性を知る
- もっと問題意識をもつきっかけがあるといい
- 似たような名称が多くて覚えられないですし、違いもイマイチ理解しにくいなと思います。もう少し噛み砕いた説明にしたり、マークの名称も、その認証内容を簡単に表したような名称になるといいなと思いました。
- 認証マークのついた食品を購入することによるメリット(社会的・個人的)が分かれば購入する意欲が湧くと思います。
- 認証マークの存在やその意味を広める。身近なものにする。
- 各マークの意味が分かれば購入しようと思います
- まずは認証マークの意味を知らないとそれ目的の購入にはつながらないと思うので、マークの普及啓発から行うべきだと思います。
- マークの内容がより身近なところで分かるといいなと思います。
- マークの認知拡大
- 認証マークを付けるためにどのような取り組みをしているのかを、実際の生産者の声で伺いたいです。苦労や悩みがあればそれも聞けると応援したくなる。
- ・PR コマーシャルの放送
・街頭チラシ配り
・地方紙（例えば福岡県だったら、【グラフふくおか】）に掲載して PR)
- SNS 等で発信することで興味をもった人が購入するとおもう
- メディアによる情報発信や、認証マークがついた食品を取り扱う大企業による広告宣伝
- 家庭科の教科書に入れる、定期的に若者向けにワークショップを行い、認証マークの商品についての知識を深める。学校や電車など若者のいる場所に認証マークについてのポスターを貼り、とにかく覚えてもらう。
- 私が記憶に残っているように、国語や英語などの読解の授業で取り上げることで、そのマークの意味までもしっかり学習できると思う。
- 横に注意書きとして、内容が書いてあったらいいかもしれない。

- マークの意味がわかるように表記を変える
- マークに説明文が記載してあると、消費者の理解を得やすく購入しようと思うかもしれない
- もうちょっとわかりやすくして欲しいです。あと、私は最近、近くに小さなイオンが出来たので、心からありがたいです。しかし、このマーク等を見ると、あんまり自分は目を通さない事があります。
- 認証マークと一緒にキャッチコピー的な一言を添えたらいいと思う
- 国が積極的に認証マークのついた製品を多数出していたり、取り扱っている、それ以外でも環境に配慮したり、エシカルの取り組みを行っている企業や事業所に補助金や税金の軽減などの優遇を行う。消費者側にもその商品に限って軽減税率を導入したり、割引が適用されるようにして購入しやすいようにする。
- 認証マークがついた食品を購入するとエコポイントがつくような取り組み
- 認証マークつき食品の価格低減、認証マークがグリーンウォッシュなどでないことの証明、マークつき商品の種類増加。
- 認証マークが付いた食品が安価であったり、ポイントが付与されたりすれば、もっと購入しようと思う。
- 広報もよいですが、一人一人の給料が上がることで、自ずとエシカルな消費ができるようになると思います
- どこかのパン祭りのように、認証マークを集めたらもれなくプレゼントといった企画があれば購入しようと思う人が増えるかもしれない。最近はやりのマイナポイントをプレゼントしてもいいかもしれない。
- シールなどがついていて、それを貯めて何かプレゼント企画に応募できる。
- 認証マークを集めると、景品がもらえるなど、特典をつけたりすると良いと考える
- マークの意味を知らないので意識しない。そのマークの意味とマークがついている商品をまとめたような講座、セット商品がほしい。また大抵のマークは小さいか目に付きにくい場所にあるため探さなければならぬ。異なる商品でもマークの位置が固定されていればその場所に印があるかないかで選択するようになるかもしれない。
- 普通のスーパーに高くてもおく
農福連携なら水耕栽培のものを市場に出す、畑のものを出す際は顔が見えるように誰が作ったかわかるようにする
- 買いたいものについていれば購入する

Q11. 認証マークがついた食品を選ぶことは、「食」と「農」に関する課題の解決につながる行動のひとつだと考えられますが、あなたは、課題を解決するためにはどのような行動や取組が重要だと思いますか。また、そのような行動や取組が広がるためにはどうしたらいいと思いますか。（自由記述）

小学生から高校生世代

- 現状とこれから必ず起こることを知ってもらうこと。想像力を働かせて話を聞いてもらう
- 食と農についての問題について、正しい知識を持ち、情報を発信していくこと
- 食に関する予測（地球温暖化でどの作物の生産量がどれくらい増減するのか等）を知ってもらう。そのために、パンフレット、学校の授業で周知する。
- 日常に食や農の取り組みを取り入れる
- まずは、事実を伝えることだと思います。私は知り合いの、農業を営んでいる高校の先生の所によくお手伝いに行きます。その時に、今まで聞いたこともなかった、農薬の恐ろしさを知ったり、アメリカなど、他の国では禁止されている農薬が日本では使用されているという事も知りました。だから、学校とかでも、そのような事実を伝えるべきだし、いずれは私たちが困る事だから、「食と農」についての事実を知る機会をもっと増やしたらいいと思います。
- こんなにも多くの人がいるから自分はちっぽけだから関係ねーみたいな思考を変えて、皆が日本のリーダーだという意識を持つべき。1週間ごとに子供リーダー学校みたいな作って、課題を解決するために、今日はこの学校が日本の子どものリーダーとなって、政策を考えて形にしたりという仕組みを作ったりとかすれば、日本の政策や課題への興味関心、自分たちは日本の大事な1人だという意識を作ることができるのではないかなと思った。
- まずは食の大切さと感謝をわかっていないと「食」と「農」の課題解決に動こうとしないと思うので、教育機関で食べ物を残したかったら残していいよと言う考えをやめるべきだと思う。先生が最初からそのように言うと子どもはもっと食べなくなると思う。
農業体験を授業の一環とする。
日本にいると食に恵まれて食べ物の大切さが分かっていないので社会問題が起こっている現場に行く企画があればいいと思う。また、世界に行けなくても現地の映像や写真を見て子どもたちの関心を高めたい。
- 一人一人が問題意識を持てるような啓発活動
- フードマイレージなど地産地消の視点や食エコなど消費者が身近に感じられる取り組みを増やしたらよいと思う。小さいことでも継続できることがよい。
- スーパーにポスターを貼る。
学校での教育
- テレビの広告や新聞の広告を使えば良いと思います
- テレビや SNS の広告を活用する。
- フェアトレード商品をアニメなどとコラボさせる

- 教育事業
- 授業などで学ぶ。
- 出前授業をする。「食」と「農」についての講座、講習会を全国いろんな場所です。そのために出前授業や講習会などのチラシを作る→学校や公共場所で配布、掲示する
- 学校に出張授業をする。
- 友人や家族と『食』『農』を話し合ってみることをすればいいと思います。
- 実際にやってみて解決して、面白いとか楽しいと思ってもらう。ゲームにして身近に感じて興味を持ってもらう
- 呼びかけるだけでは、なかなか変わらないのでやはり、ゲーム感覚でやるほうが子供たちの頭の中に残ると思う
- マークがついてないものを選ぶ
- たくさんの人に知ってもらえるようにお店側も売り出していく。
- マークがつく背景にある問題をしっかり理解することや、マークを見たときに瞬時にその背景が思い浮かべられるような意識付けをすること
- マークが着いた商品を買う良さをみんなに知ってもらえるようにする。
- マークを集めるスタンプラリー
- 売り場に、マークのついた食品と、ついていない食品の違いを示すポップをつける。
- まずはマークについてより多くの人に知ってもらうこと。家庭科の教科書に載せるマークを増やす。小中学生向けにわかりやすい説明をする。
- 駅など人の往来のある所で WFP のレッドカップの募金活動のような、ボランティアで認証マークの啓発活動をする団体があるといいのではないかな。私は4月からの生徒とボランティアで学校の周りの花壇の植え替えをしている。身近に畑がないので土に触っているとミズが出てきたり自然を感じて癒される。植物も動物も触れ合う体験があればあるほど大人になって関心を持つようになると思うから農作業や潮干狩りなどを子どもの内に体験できるようにして欲しい。教養番組などを親子で観てアニマルウェルフェアやフェアトレードを取り上げて欲しい。
- 認証マークについて、考えながら買えたらもちろんいいと思うが、全部の意味を知っている人はなかなかいないように感じる。いかに身近な問題だと思えるかが重要になってくるとおもうので、地元という意識が薄まってきている時代ではあるが、親近感がわくように「地元がいっしょ」を強調できたらいいと思う
- 認証マークのある食品の割引
- 人々がよく買うコンビニで、食の問題に配慮した商品を取り扱う
- まずは残さず食べることが重要だと思います。最近イオンでは端末を用いて商品を事前に登録するシステムが見られます。そういった端末に消費者が何日分の食品を購入するか、買い物の目的等を事前にアンケートの形で端末に記録し、登録されていく商品が適正量か、その目的にあっているかなどを判断するシステムがあると買いすぎが減ると考えます。その場でのアンケートは面倒だと思う人もいるかもしれないので、大型スーパーだと専用のアプリを開発し、そのアプリに出かける前

にメモ機能のような感覚でアンケートを記入してもらうことが可能かと思います。アプリとイオン側の端末を連携すれば結果が反映させるように作る感じですか。イオンの某端末のおかげで、そういった買い物に抵抗を感じる方々も減っていると思うので、都市圏で試作的に取り入れ、フィードバックを得た上で、広報をかけて実行すると程よいスピードで広がっていくのではないかと思います。

- ちゃんとした会社のところで買う。無駄に多く商品を買わない
- 現在『フードロス』ということが日本で問題になっていると思います。この課題を解決するため、映像を利用したいと思います。今日日本の小学校や中学校の家庭科の時間で食育について学ぶと思うのですが、その時に生産された農作物がコンビニの店頭や私たちの食卓に並ぶまでの工程を撮影したビデオを見る機会があると思います。しかし、賞味期限が切れてしまった食べ物がその先どうなるかというところまでは撮影されていません。例えばコンビニのおにぎりなどは賞味期限が短いため毎日大量に破棄されています。店頭で並ぶドーナツやケーキなどもそうです。私は1度テレビ番組でまだ食べられそうな食べ物が破棄される映像を見たことがあるのですが、衝撃と同時に『もったいない』と言う感情が湧き、悲しくなる気がしました。この映像をすべての小学校や中学校で流すことにより少しでも食べ物に対する心持ちが変わり、フードロスが削減されるのではないかと思います。
- 大きさが規格外のものや傷がついているが食べられるものなどの廃棄量を少しでも減らすために積極的に売り出し購入する。少し高くても国産の農産物を買う。
- 食の大切さ、有り難さを感じ、一人ひとりが必要な量だけを買うようにする。日本における一年での食品廃棄物の量をクイズ形式にして YouTube ショートに投稿するなど、自分ごととして考えてもらうきっかけを作る。
- 食べ残しや生ごみの肥料を作る
- もっと農業体験ができれば身近に農業を感じられると思う
- 若者に農業の良さを広める。
- 認証マークがついた食品を選ぶことは、食と農についての課題の一つである気候変動への対策として良い解決策だと思います。その他の課題、食料自給率や農業従事者の高齢化の問題を解決するためには、結局、どの問題も解決するためには新しい若い世代が農業を営む必要があります。なので、農業と農業から疎遠になっている子供や若い人が繋がるような機会を設けると良いのかと思います。そのような機会を持つということが広がるためには、食について危機意識を持っている NPO などの団体と連携して、行政が取り組みを推進していく必要があると思います。
- 学校などで農業の体験をする機会を増やす
- 各家庭に畑を作る
- 農家さんの実態を発信する、農の理解を深める。そのためには特に SNS の情報発信の強化をしたほうが良いと思う。最近なら 1 分未満で視聴可能な short を使ってもいいかもしれない。認知度が上がらないと言う事は、視聴者側が長時間かけて動画を視聴したくないという影響もあるだろうから少しでも取っ掛かりをつくる

- 農家や漁港の高齢化が進んでいることが大きな問題の1つだと思う。また他の問題も、学校でもっと取り上げることで、私たちの世代での認知度が上がると思う。
- 農業の楽しさを知ってもらおう。3Kと言われていたイメージがまだに残っている人もいるので、農業のイメージを変える。
- 農業体験や地産地消のお料理教室、違う県にいてその名産物を知る、などいろんな体験教室があれば楽しそうなのでいってみたい。それぞれが関心をもっていく。
- 地域の食や農に興味を持ってもらうような取り組み。例えば、給食やレストランなど身近な場所で使用されていたり、スーパーで取り扱いが分かりやすくあったりすると思います。
- 地元の農家さんが作った食材を買い、地産地消をする。
- 地産地消をある程度義務づける
- 出来るだけ近くで生産されたものを買う。旬なものを買う。
- 食品業者が労働者への人権に配慮する。普段から省エネを意識して、気候変動のことを一人一人が意識する。
- 安全マークのよさはわかりますが、お母さんは安いものを選んでいきます。食費が限られているので、よいものを買えないといっていました。

大学生世代以上

- 課題の先にいる人達を考えること(誰がどんな影響を受けているのかなど)
- まずは多くの人が現状と課題を知ることが大事だと思う。課題解決のために動いている団体に積極的にSNSを活用してもらい、大勢の人に見てもらえれば関心につながるのではないかと考えた。
- 一人一人が問題への責任を持つために、テレビやラジオやインターネット等のメディアで問題を考える番組や広告があれば良いと思うまた、食べ残しなし月間や食の大切さ月間など、市や県でPRしたら良いと思う。市の広報誌でも効果的だと思う。
- 広告などで広める。
マーク付きの商品の特売日などがある。
- スーパーやコンビニ等で認証マークの説明書きが見やすいところに大々的に設置されていると、食品について学ぶ機会の創出につながるのではないかと思います。
- マークの意味を知らせる。そのマークを付けた商品のどういった取り組みが課題解決となっているのか知ることが出来れば多少の価格の差は許容できる(例：フェアトレードは生産者に利益を渡すために高いなど)。
- マークの周知をはかる。
- そもそも認証をつけた食品が少ない。認証の付いた食品のみを販売する展示会が期間限定でも開かれると、認証済みの製品に出会える機会が増え購入につながる。
- まずは、各々のマークの意味を勉強して、自身が購入したうえで、どのように貢献できるのか、理解すること。自然と人に結果、どのように還元されるのか、理解すること。

- まずは各マークの意味を世の中に浸透させることだと思う。各々の理解が深まっていけば、自然と行動が広がっていくと考えている。
- 私も、繋がるかと考えられます。しかし、改めて、マーク等を目を通しやすく、もう少しわかりやすくして欲しいという気持ちあります。
- 見た目を選ぶためマークを機能的に使うのであればもっと見やすくする事が必要。マーク事態を知らない意味ないのでポップ等で常に周知する幼少期から見たことある、聞いたことある等きっかけを作る。このマークを買ったら税控除とかあると買う人は増える。
課題解決をしたいのか？意識改革をしたいのか？課題解決のために意識改革をするだけでは、解決に繋がらないと思う。そもそも誰かを助けるために余裕がある状況の人が現状少ないと思う。PRにインフルエンサーやアイドル等を起用し限定パケやグッズ等で推し活を利用する。
- 学校に通っている人はマークについて授業で触れるだけでなく、生産者の思いや流通の流れが知れる体験やツールがもっと含まれても良いと思います。認証マークのある商品は、大多数のスーパーというより、特定のオーガニックショップなどに置いてあるイメージなので、より多くの消費者が手に取りやすいよう、身近なスーパーにももっと多く置くべきだと思います。また消費者が理解しやすいよう、店頭ポップだけでなくメディアや SNS 発信を通じて、マークの意味を広め、消費者の購入次第で持続可能な社会に貢献できることをアピールすべきだと思います。
- 商品についていても、気にせず購入していることも多くあると思います。私もそうです。もっとその商品にはこのマークが使われていますと分かりやすく表示したり、そのマークの意味までもが分かりやすく書いてあるといいと思います。また学校の授業で取り上げることによって、親と子どもと一緒に買い物に行く際に「このマークは〇〇だ。こういう意味だね」と話すことでより多くのマークの理解が増えるのではと思う。
- 認証マークの意味する内容を普及することが課題解決の一步につながると思われる。
- 認証マークの有無で商品を選ぶ意識や余裕のある人は少ないと思います。認証マークをつけるだけの努力とコストを払っている生産者へ、政府が支援や補助をすべきだと思います。
- 購入する商品を選ぶ際にマークがついていることを重視する人は一部の意識が高い人のみであり、大多数の人はそのほかの理由(味や見た目、値段など)で選んでいるように思う。消費者に働きかけることによる効果は限定的であるため、メーカーや小売業者への働きかけをさらに行うことで、規格適合商品を市場へ多く流通させ、消費者に対して間接的にサステナブル商品の消費を促すことが重要なのではないかと。
- 私は、認証マークが広まる前から対象の商品を購入していましたが、アンケートを見たとき、ついここまで広がったかと感じました。認証マークがついた商品のリピーターが増えることが大事だと思います。それと同時に生産者に利益が還元される取り組みが必要だとこのアンケートに答えて感じました。
- フードロスには私達が日常から取り組むことのできる解決策であるが、販売店などでの徹底を強化すべきだと思う。アルバイトで大量の廃棄を見ていると、家でもいいやとってしまっている友人がいるため。

- 食品ロスが大事
- 食品ロスを減らすよう取り組む。家庭でも企業でも、食品ロスが少なかった上位数%に何か特典を与える、もしくは逆に全ての自治体でゴミ袋を有料化するなどして国民全体が今以上に「食品ロスを減らそう」と思える環境をメディアなども効果的に使いながら政府主導で行う。
- 農家の収入を増やして魅力を PR することができれば多くの課題は解決すると思う
- 農家の人と仲良くなること。農家の人が身近になることで、自分事化できるのではないかな。
- 農業に対するイメージの改革から必要だと考える。どうしても農業 = 賃金が安い、不安定、高齢者の仕事といったイメージを持っている人が多いのではないかと考える。インフルエンサーを起用して農業を行ったり、農業をしている人の賃金の話などを聞ける機会があればよいのではないかな
- 農業の魅力を若者世代に伝え、後継者を確保する。→給与を上げる、保険制度を整える、地方に住むメリットをもっと強めるなどの対策をすれば農業に携わりたいと考える若者の数が増え、後継者不足の問題も軽減されると考える。
- 1次産業が日本では軽く見られすぎていると思うので、国などからの支援を充実させるべきだと思う。本業として農学部に通い農家を目指す人は多いイメージでは無いが、趣味やセカンドライフとして興味がある人は多いイメージがあるのでそういう人に支援の案内をして本格的な農業を勧めたり、地元のスーパーと繋ぐ案内をしたりするといったこといいと思った。そういった計画を立ち上げて、サイト開設をして、ニュースや新聞に取り上げてもらい、今東京都が行っているように電車広告をうったりすると広がると思う。
- 地産地消がよいと考え、道の駅で購入することにしたが旬の食材が手に入るの、まわりにもおすすめしたい。
- 地産地消ひいては食料自給率を進めるという課題について、農家のなり手不足の解消のため消費者に地域産や国内産の食材を買うメリット(貢献度ポイント)をつけ、農業従事者にもその業を続けるメリット(稼げる)を生み出す必要がある
- 結局のところ、児童労働も乱獲も経済活動に伴う環境汚染も、そうしたほうが利益になるという者がいることが原因にある。持続可能性を大切にしたいほうが利益になると思わせるような仕組みを作る必要がある。行政には制度作りなどの大きな力が必要となることに取り組んでいただきたい。また、紙ストローの普及やレジ袋有料化などの過去に行ったことの効果も発表するべきだ。一個人ができることとしては、このようなアンケートに答えたりデモに参加したりして政府に問題解決に取り組むよう圧力をかけることが重要だろう。このような行動を広めるためには、義務教育の段階で民主主義について学ぶ必要があるのと思うが、個人ではインフルエンサーや新たな教祖にでもなるしかないのかもしれないと思う。
- 広報もよいですが、一人一人の給料が上がることで、自ずとエシカルな消費ができるようになると思います
- 購入するためのお金がない人も多いので、低賃金問題への取り組みや、農水産物の生産者・生産地域に住みたくなる・従事したくなる支援があると良いと考える。
- 他の安価な食品ではなく、認証マークが付いた食品を選ぶことができるように、賃上げを行う。

ひとり暮らしの人向けに認証マークが付いた食品をセットにして販売する。

- 声を上げる（政治への要求、参加、情報発信）こと。世論が高まらなければ政治が動くことはないし、発信がなければ取り組む人も増えないから。問題があれば声を上げる習慣をつける（教育や大人への啓発活動など）。
- 閉塞感がある社会においては、生活者が学習性無気力に陥りがちだ。購買行動によって変化が起きる成功体験が必要であり、そういった事例を拾い上げてほしい。また、多くの認証の手数料は一律であり、消費税と同様に逆進性が高い制度である。公平であるが、公正ではない。小規模事業者への認証取得の公的補助が充実すると良い。
- 買えるなら国産の農産物を買う